

## 聖なるものを聖とする信仰

「神聖のものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう」という主イエスの言葉は、「山上の説教」の中でも、読む者聞く者に強烈な印象を与えるもっとも厳しいことばの一つである。その厳しさは、ここで使われている「犬」や「豚」ということばの持つネガティブな響きによるものであるにちがいない。

今日でも「犬」や「豚」ということばはあまり良い意味では使われない。聖書の世界でもそうであった。聖書ではしばしば犬は、どう猛な野生の犬または野良犬で、町の通りをうろつき、人にほえかかり、人の血をなめ、また死人の肉を食べるものとして描かれている（列王記上 14：1、16：4、21：19-23）。それは「敵対する者」に対する呼称であった（詩編 22：16、20）。

また豚は、宗教的に汚れたものと見なされ（レビ記 11：7、申命記 14：8）またどんなに洗われても再び泥（どろ）の中にくろげ回り、汚れたものも平気で食べ、どんな高価なものでも、その足で踏みにじるものとして、嫌悪された（箴言 11：22、第2ペトロ 2：22）。

そのような背景のもとで、新約聖書においても「犬」や「豚」はネガティブな意味を持ち、福音の真理に敵対し、或いは、それをねじ曲げる異端者や反対者をさすものとして使われている（フィリピ 3：2、第2ペトロ 2：22）。ここで「神聖なもの」「真珠」と言われているのは、神の国の真理、福音の真理のことである（マタイ 13：45～46）。従って、上記の主の教えは、神と神の福音を（豚のように）踏みにじり、（犬のように）向き直って噛みついて来る者に対して、主の教会（キリスト者）はどのような態度で臨まなければならないかを教えていると解することができる。

別の箇所では、尊い福音の真理を託された教会・キリスト者は、ハトのように素直であるとともに、ヘビのように賢くなければならぬ、と言われた（マタイ 10：16）。キリスト者は、キリストのしもべとして愛と柔和をもって人々に仕えるとともに、神の真理をゆだねられている者として、こと福音の真理に関しては、一切の妥協を排する厳しさを堅持しなければならないことを教えられる。

何ものにも代えがたい「真珠のような」福音の真理が足で踏みにじられ、キリストの聖なる福音が「ばらばらに引き裂かれる」（原語では“かみつく”の意）ことに、キリスト者は決して平気であってはならないのである。神の『ことば』を『神の』ことばとして、大事に受けとめ、それを正しく守り、正しく宣べ伝えていく、そこにキリストのしもべとしての教会およびキリスト者の使命があるのである。

しかし同時に、この主のことばは、私たちキリスト者に対する警告のことばでもある。果たして私たちは、聖なる神の福音を足で踏みつけるような生活をしてはいないか。私たちに与えられたキリストの恵みの福音を、神聖なものとして尊び、また真珠のように、本当にわが宝としてしっかりと握りしめ、わが身の飾りとして歩んでいるだろうか。そのように問われているような気がする。